

小中学校にICT環境を整備

ICT…「Information and Communication Technology(情報通信技術)」の略



日本社会は現在、人口知能(AI)、ビッグデータ、ロボティクス等の先端技術が高度化して、あらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety5.0時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものが劇的に変わり始めています。私たちの身の回りでも、1人1台のスマートフォンが当たり前になり、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うリモートワークや在宅ワークが急速に普及してきました。そのような時代の中で、小中学校の学びの形も変化しています。

これまでの教育

知識や技能の習得

(いかに多くの知識を得るか)



旧

新学習指導要領

どのように学び、
どう活用するか

(何が出来るようになるか)



新

令和2年度に小学校、令和3年度には中学校で、それぞれ新学習指導要領が完全実施となりました。

新学習指導要領では『主体的・対話的で深い学び』の実現がうたわれ、言語能力、問題発見・解決能力とともに、情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力として位置づけられています。膨大な情報の中から、必要なものを自ら取捨選択し、有効に活用できる能力「どのように知識を得て、どう活用するか」の育成が求められています。

児童生徒がこれらの能力を身に



付けるために電子黒板やタブレット端末をはじめとするICT機器はとて有効なツールとなります。ICT機器を学習に取り入れることで、これまでの教員から児童生徒への一斉授業を脱却し、双方向型の授業や協働的な学習を展開することが可能となり『主体的・対話的で深い学び』へとつながります。

新 学習指導要領の実施に伴い、現在の教育では、これまで以上に各学校におけるICT機器が大きな役割を果たすようになっていきます。